

令和5年度鳥取県立博物館企画展

ミュージアムとの創造的対話04

小沢剛⁺ヤギの目

Tsuyoshi Ozawa
+The Goat's eye projects

高山明

Akira Takayama

リクリット・

ティラヴァニ

Rirkrit Tiravanija

シラ
エー
ア
リ
ン
グ
グ

—共有から未来は開くか?—

2023.11.26^{sun} → 12.28^{thu} 12/11[月]
は休館

会場 | 鳥取県立博物館 第1・2特別展示室および中庭
鳥取県内のマクドナルド ※高山明作品のみ各店舗の営業時間内に体験できます

開館時間 | 午前9時—午後5時 ○入館は閉館の30分前まで

観覧料 | 一般:700円(前売り・大学生・70才以上の方・20名以上の団体:500円)

○次の方は無料です/高校生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者

主催:創造的対話展実行委員会(鳥取県立博物館、日本海テレビジョン放送株式会社)

協賛: NEX 出雲モリックスジャパン 吉備総合電設 三和商事 TTC 鳥取県情報センター

協力:株式会社中川ケミカル、公益財団法人 石川文化財団、マクドナルド、メイちゃん農場、Gallery SIDE2、MISASHIN GALLERY



鳥取県立博物館
TOYOKAWA PREFECTURAL MUSEUM

共有から未来は開くか？

「ミュージアムとの創造的対話」は、ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探ることを目的としたシリーズ企画展です。第4回目の今回は、「ラーニング／学ぶこと」と「シェアリング／共有すること」をテーマに、同時代を生きるアーティストの作品を通じて、従来の美術教育にはとどまらない「第3の学びの場」としてのミュージアムの可能性について考察します。昨今のミュージアムでは、知識や情報を教え育てる教育普及から、自発的で主体的な学び／ラーニングへと重心がシフトし、フラットな関係性の中で様々な経験や出来事を分かち合うシェアリングへの関心が高まっています。作品との出会いをきっかけに、思考を巡らせ、行為や表現に移すプロセスにおける創造性が注目を集めると同時に、アートを介して自分とは異なる他者と出会い、その声に耳を傾け、誰かについて想いを馳せる想像力は、社会的な分断や孤立が進む時代に、世界と向き合い未来を考える上で切実に求められているのではないのでしょうか。

本展に参加する3人／組の作家たちは、参加型の展示やワークショップ、プロジェクトなど、体験やコミュニケーションを通して人と人、アートと社会との関係性に問いを投げかけ、学びと共有の現場を作り出します。本展が社会教育施設としてのミュージアムという場を改めて見直す機会となり、これからの活動の指針となることを願っています。

Artists

小沢剛 Tsuyoshi Ozawa

1965年東京生まれ。牛乳箱を用いた超小型移動式ギャラリー《なすび画廊》や《相談芸術》、女性が野菜で出来た武器を持つポートレート写真《ベジタブル・ウェポン》、歴史上の実在する人物を題材に、事実とフィクションを重ね合わせ、物語を構築する「帰って来た」シリーズなど、美術の歴史や制度、社会的現象への批評的な眼差しを投げかけ、ユーモアを交えながら多様なメディアによる作品を制作している。2019年第69回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

ヤギの目 The Goat's eye projects

2019年東京藝術大学先端芸術表現科の小沢剛研究室と取手アートプロジェクトが共同で設立。現在大学構内でのヤギの飼育を基盤に様々な活動に取り組んでいる。

高山明 Akira Takayama

1969年生まれ。2002年、演劇ユニット Port B(ポルト・ビー)を結成。実際の都市を使ったインスタレーション、ツアー・パフォーマンス、社会実験プロジェクトなど、現実の都市や社会に介入する活動を世界各地で展開している。近年では、美術、観光、文学、建築、都市リサーチといった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想・思考によって様々なジャンルでの可能性の開拓に取り組んでいる。主な作品に『ワーグナー・プロジェクト』(横浜)、『マクドナルド放送大学』(フランクフルト)、『ビレウス・ヘテロピア』(アテネ)、『北投ヘテロピア』(台北)、『横浜コミュニティ』(横浜)、『国民投票プロジェクト』(東京、福島ほか)、『完全避難マニュアル』(東京)など多数。

リクリット・ティラヴァニ Rirkrit Tiravanija

1961年アルゼンチン生まれ。現在はニューヨーク、ベルリン、チェンマイを拠点に制作活動を行う。作品と鑑賞者の間の壁を取り払い、体験と交流に焦点を当てた参加型の作品で知られている。主な展覧会に2020年「Fear Eats the Soul」(グレンストーン美術館、ポトマック)、2019年「Rirkrit Tiravanija: Who is afraid of red yellow and green.」(ハーシューホーン博物館、ワシントン D.C.)ほか、ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ、国際展にも多数参加している。国内では2022年の岡山芸術交流にてアーティストリック・ディレクターを務めたほか、2015年「誰か世界を翻訳するのか」(金沢21世紀美術館、金沢)など多数の展覧会に出品。



小沢剛《あなたが誰かを好きになろうよ、誰もか誰かを好き【劇場版】》2015 いちき芸術文化交流館アリオス photo:白玉菜々



高山明 / PortB 《McDonald's University@Frankfurt》2017 photo:Masahiro Hasunuma



リクリット・ティラヴァニ 《Untitled 2016 (mañana es la question)》Installation view, CCK, Buenos Aires, Argentina

Events

11月26日[日] 14:00-15:30 アーティスト・トーク(小沢剛、高山明)

12月17日[日] 14:00-15:00 アーティスト・トーク(リクリット・ティラヴァニ)

12月23日[土] 15:00- 「ヤギの目、ヤギ先輩と語る。」ゲスト|小林明道博士

(動物行動学/公立鳥取環境大学教授)

【参加メンバー募集!】ヤギの目プロジェクト@鳥取県立博物館

ヤギのための小屋作りなど、会期中の公開制作をお手伝いいただける方を募集します。申込方法等詳細はwebsiteにてお知らせします。

Access

◎JR鳥取駅からバスで

●100円バス「くる梨」(緑コース)で「①仁風閣・県立博物館前」下車すぐ

●ループ麒麟獅子(土・日・祝のみ)で「③鳥取城跡」下車すぐ

●砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m

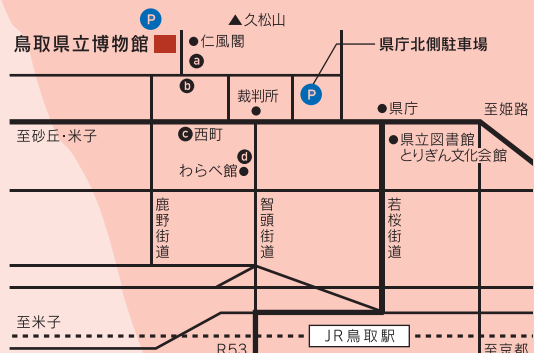
●市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車約600m

◎JR鳥取駅からタクシーで…約10分

◎鳥取空港から…鳥取駅連絡バスで「西町」下車約400m

◎お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分

○当館駐車場40台駐車可能 ※なるべく公共交通機関をご利用ください



日本通運株式会社 鳥取事業所
TEL.0857-28-0202



本 社 鳥取市商栄町203-6
倉吉店 倉吉市幸町529番地ユーミレジデンス1-3号
http://www.morrix.co.jp/



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124 TEL. 0857-26-8042 FAX. 0857-26-8041
https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

次回企画展 生誕200年根本幽暁 NEMOTO Yuga—近世鳥取画壇の「黄金時代」最後の華— 2024年2月10日(土)~3月20日(水・祝)



Follow Us!